



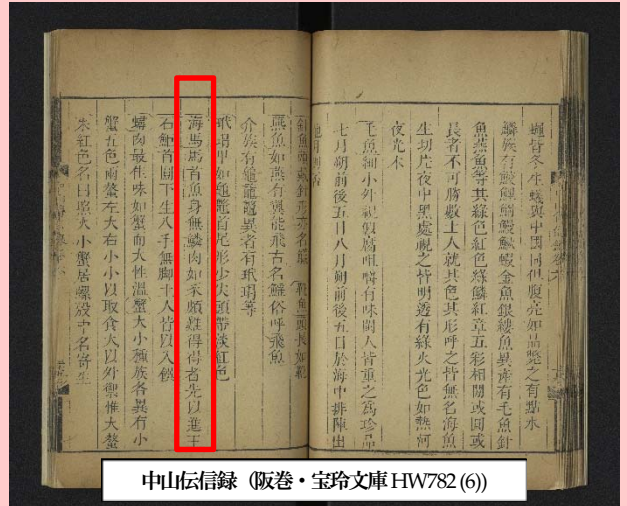
きじむんの どう〜ちゅいむにー 千支編
第12回 辰・龍(たつ)

キーワード：龍 辰 海馬 中山伝信録

ハイサーイ&ハイターイ キジムンヤイビーン！（やあ、きじむんだよ〜）。とうとう三月！ 卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年度最後の「どう〜ちゅいむにー」は辰（龍）に関するお話・・・なのかな？

・江戸時代に起きた「琉球ブーム」

江戸時代の日本でも、“琉球ブーム”といえるようなムーブメントが起きたことがあります。「江戸立^{えどだて}」とは、1609年の薩摩による琉球侵攻後、徳川将軍や琉球国王の代替わりの度に琉球が江戸へ使節を派遣したことをさします。徳川将軍の代替わりの際には慶賀使、琉球国王の代替わりに際しては謝恩使が派遣されました。片道約2,000キロにおよぶ旅程は、鹿児島から船で九州西海岸沿いから瀬戸内海を渡り、大阪から東海道へ進んで江戸へ向かうものでした。琉球使節団はルート上の各地で、路次楽を奏で、華やかに行列を行いました。沿道には多くの見物人が集まり、美しい青少年で構成される楽童子は特に人気がありました。



中山伝信録（阪巻・宝玲文庫 HW782 (6)）

・『中山伝信録物産考』に出てくるアノ生き物・・・

琉球人の江戸参府を機に、各地で琉球使節に関する書籍や絵図、学者達によって琉球を紹介する書籍が刊行されました。江戸の本草学者である田村登（藍水）が著した『中山伝信録物産考』（1769）は、清朝から派遣された冊封副使、徐葆光が帰国後に著した『中山伝信録』（1721）に採録された動植物について絵図と共に解説した資料です。

この資料の二巻に「海馬」が掲載されています。海馬とは別名で「タツノオトシゴ」といい、『中山伝信録物産考』にも、タツノオトシゴの絵が描かれています。

文章は『中山伝信録』巻六の「海馬」の項の漢文を書き下しにしたものですが、そこには次のような意味が書かれています。



中山伝信録物産考（阪巻・宝玲文庫 HW666-1）

馬のような首に魚の身、鱗は無く、肉は豚のようである。入手が大変難しく、手に入れた場合はまず王に献上する。

あれ？ 何かおかしくないですか???

実は、「海馬」はタツノオトシゴの別名ですが、それ以外にも「アシカ」「セイウチ」といった海棲哺乳類をさし、琉球では「ジュゴン」のことを示しているのです。ジュゴンを知らない江戸の人が「海馬＝タツノオトシゴ」の事と考え、挿絵を入れてしまったのだと考えられます。

今のように、写真を簡単に探して見るができなかった時代らしい、「間違い」資料だと思いますが、皆様いかがでしょうか？

今年度の「きじむんのどう〜ちゅいむにー」はこれで終了。来年度もよろしくね(CT)

参考文献：当山昌直「琉球の「海馬」(ジュゴン)の名称について」(『史料編集室紀要』no.34, 2011年)

